

わたしたちにもできることがある

— 知ることからはじまる国際協力 —

国際理解教育サポートプログラム

37年の歴史を持つ国際NGO、AAR Japan [難民を助ける会] が、豊富な経験を活かし、魅力的な国際理解教育の企画をご提案します。



AAR Japan とは…

1979年に生まれた政治・宗教・思想に偏らない国際 NGO です。紛争や災害などの困難に直面した人々へ、「困った時はお互いさま」の精神で直ちに支援を届けるとともに、誰もが生命や生活を脅かされることのない社会を目指した活動を続けています。発足以来、活動地域や分野を広げながら、これまで 60 を超える国、地域で支援を展開。現在は 15 か国で活動しています。1997年、地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)のメンバーとしてノーベル平和賞受賞。



AAR の活動国(2016年2月現在)

● 小学校・中学校・高校の先生方へ

世界では紛争や武装勢力による暴力が後を絶ちません。その結果、世界では約 6,000 万人の人々が難民生活を強いられています。これは、世界の人口 10 人に 1 人の割合です。

「自分が難民になるなんて、思ってもみなかった。」南スーダン難民の女性はそう語りました。

「シリアで今起きていること、私たちのことを忘れないでほしい。」と語るシリア難民の少女。

私たちと同じ平和な日常を送っていた人々の生活が、どのように断ち切れ難民となっているのか「シリアにいるのがもし、私だったら」「私の家族だったら」「私の友達だったら」……。世界中で支援を必要としている人々の現状を、日本の子どもたちが「自分ごと」として考えられる視点と想像力を、私たちの支援活動の現場の声を通して養っていただければと考えています。

企画の具体的な内容は学校と AAR が相談しながら作り上げていきます。

まずはお気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

AAR Japan [難民を助ける会]

啓発(国際理解教育)担当 穂積、大久保、柳田

Tel: 03-5423-4511 (月~土 10:00~18:00)

Fax: 03-5423-4450

E-mail: info@aarjapan.gr.jp

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2

ミズホビル 7F



AAR Japan [難民を助ける会] 東京事務局へのアクセス

JR/東急目黒線/東京メトロ南北線/都営三田線「目黒」駅から徒歩
2分

● 依頼から実施までの流れ

1. 申込書のご送付

プログラム実施の**1ヵ月前まで**に、郵送、FAX、E-mailのいずれかでAARに申込書をお送りください。

※申込書は当会のホームページからもダウンロードできます。

<http://www.aarjapan.gr.jp/school/>

※プログラム内容に関するご相談はいつでもお電話やE-mailで承ります。

2. 詳細のご相談

AARよりご担当の先生にご連絡します。プログラムのテーマや構成、必要な準備、費用等について、ご相談しながら詳細を決定します。

3. 当日

各種プログラムを実施します。

● 費用について

講演・ワークショップにつきましては、実施一件につき、5,000円以上のご寄付または謝金をお願いいたします。

AARは皆様からのご寄付により、支援活動を続けることができます。ご理解をいただけますよう、お願いいたします。また、実施にかかる交通費・宿泊費、教材・資料の送料などは、実費のご負担をお願いいたします。

国際理解教育サポートプログラムに参加した学校には

・国際協力について分かる当国会報「AAR ニュース」(毎月発行)、学校向け壁新聞「サニーボイス」などをお送りいたします。また、実施したプログラムや学校の皆さまによる国際協力活動の事例を取りまとめ、年1回ご報告させていただきます。



● 活用の機会

AARの国際理解教育サポートプログラムは以下のような活動にご利用いただけます。

- ・総合的な学習の時間(全学年)
- ・社会科の授業の発展学習として
 - 一例として、以下の内容に関連付けてご活用いただけます。
 - 小学校: 国際交流、国際協力、平和な国際社会の実現
 - 中学校: (地理) 世界の様々な地域、(公民) 私たちと国際社会の諸問題
 - 高校: (世界史 A) 「持続可能な社会への展望」、(地理 A) 「世界の生活・文化の多様性」「自然環境と防災」「現代世界の諸地域」、(現代社会) 「共に生きる社会を目指して」
- ・文化祭・学園祭、課外学習

● プログラムのご案内

1. AAR スタッフの講演

世界15カ国で活動するスタッフがそれぞれの活動についてお話しします

AARスタッフが国際協力に関する幅広いテーマを、お話や映像などで分かりやすく説明します。テーマ・内容・構成・講演・時間などはご希望に合わせて調整いたします。

※スタッフが学校に伺うことも、皆さんに当会事務所にお越しいただくことも可能です。

※所要時間は30分~90分程度(応相談)

※当会事務所で開催する場合、スペースの都合上、参加者数は40名までとさせていただきます。



2. ワークショップ

世界の問題を身近に感じられるようになります

小学生向けから高校生向けまで、さまざまなテーマでワークショップを行います。講演・出前授業との組み合わせも可能です。

対象：	小学生から高校生
人数：	自由（当会事務所で実施する場合は40名まで）
所要時間：	30分～90分（応相談）
テーマ：	緊急支援、難民支援、地雷・不発弾対策、障がい者支援、感染症対策、東日本大震災緊急・復興支援、アフリカ・アジア他各国での支援活動、国際協力とNGO、ボランティアの意義、世界の子どもたち、NGOで働くということ、女性と国際協力・・・など。「世界の民族衣装を着てみよう」など、様々なアクティビティを組みこむことも可能です。
過去の講演テーマ（一例）：	
小学校：	「いろいろな国と、いろいろな人々、そして私たち」
中学校：	「いま知ってほしい、地雷のこと・クラスター爆弾のこと」
高校：	「難民支援のさまざまなアプローチ」

A. のぞいてみよう！世界の子どもたちの1日（対象：小学生）

開発途上国の子どもたちの「いつもの生活」を体験するワークショップ。南スーダンの子どもたちの水汲み、アフガニスタンの子どもたちの遊びなどを体験しながら、世界にはいろいろな文化・暮らしがあることを実感します。

B. 地雷探しゲーム（対象：小学生）

日本では馴染みのない地雷・不発弾の問題。AAR オリジナルの地雷探しゲームを通じて、「自分の家の近くにも地雷があったら？」と、地雷・不発弾の問題を自分のこととして考えてみます。



C. みんなちがうね、でもいっしょだね（対象：小学生～中学生）

足に障がいがあるため、車いすで学校に通うカンボジアのサルーンくん。サルーンくんの生活を学びながら、障がいがある子もいない子も一緒に学び遊ぶために、自分たちにできる国際協力は何かを考えます。

D. 地震発生！チャレンジ緊急支援（対象：小学校高学年～中学生）

自然災害や紛争が発生した際に国際NGOが行う「緊急支援」を疑似体験します。普段は見えづらい災害の現場で必要なことや、国際協力の仕事への理解が深まります。



E. 難民になったらどうする？（対象：中学生～高校生）

「自分が難民になったらどうしよう？どういうことに困るんだろう？」紛争や災害のため故郷を追われた難民の方々が抱える困難を、避難生活を体験しながら理解します。

3. アクティビティを組み合わせる

学校での事前・事後学習と組み合わせれば、さらに実践的な学習に

プログラム組み合わせ例（テーマ：難民問題）

① 事前学習

↓ 本やホームページなどで、世界の難民問題や、国連や NGO の活動、AAR の活動について調べ、質問をまとめる。

② AAR スタッフの講演・出前授業（45分）

↓ トルコでのシリア難民支援事業、ケニアでの南スーダン難民支援事業に携わる AAR スタッフが学校 NGO の支援活動について話を聞く。支援現場の映像、難民のインタビュー映像を観たりしながら、理解を深める。

質疑応答（10分）

③ 事後学習

↓ 出前授業の内容・感想を書いたり、「自分たちにできること」をまとめて発表しあう。

④ 協力活動

クラス・学年・学校単位で、募金活動、バザーなどを企画し、実行する。

4. ボランティア体験（対象：中学生・高校生）

AAR 事務所で、簡単なボランティアに参加できます。国際協力活動に不可欠な、郵送物の封入作業などをお手伝いいただきます。実施時期・回数・参加人数・時間・作業内容などはご相談に応じます。

参加人数：3名～20名程度

場所：AAR 事務所（アクセス詳細は2ページ目をご覧ください。）

所要時間：60分～90分（応相談）

※講演との組み合わせも可能です。

5. 児童・生徒さんの皆さんの質問に答えます

教科書やインターネットだけでは分からないことにもお答えします。

事前・事後授業や普通の授業の中で生徒が調べ学習をする際に、

・電話やメールなどでのお問い合わせ

・インタビュー取材

・・・などを通じ、AAR スタッフが丁寧にお答えします。

実施に当たっては、必ず担当の先生より事前にご相談ください。

学校でできる国際協力

生徒の自主的な活動を、AARがサポートします

国際協力のテーマについて調べ、発表する

関心のある国や分野についてより深く知る、そして知ったことをひとに伝えるといったことも、大切な国際協力です。文化祭などで発表することで、さらに理解が深まります。

写真パネルやDVDなどを貸し出しできます。詳しくは裏表紙の教材一覧をご覧ください。

チャリティ・バザーを行う

AARで販売しているチャリティグッズや、家で眠っているもの、生徒たちの手作り商品などを集めてバザーを行い、売り上げを寄付します。

⇒ミニタオルやキーホルダーなど、AARのチャリティグッズの委託販売を承ります。品物や販売方法については別途ご相談ください。



募金活動を行う

文化祭・学園祭で、街頭で、募金活動をしてみませんか？

- 募金箱の貸し出しをしています。
- AARでは、募金の使い道（例：シリア難民支援、ミャンマーの障がい児支援、東日本大震災被災者支援など）を指定していただくことができます。
- なお、ご協力いただいた学校には、募金の使い道をご報告させていただきます。また、ホームページ上やAARの会報にて、広く会員・支援者の皆さまにご紹介させていただいております。



身近なもので国際協力

AARでは、未使用切手、書き損じハガキ、未使用テレホンカード、商品券、古本などの寄付を受け付けています。未使用切手はそのままで、書き損じハガキは郵便局で新しいハガキや切手などに交換し、会報の送料や通信費として活用しています。お送り先などの詳細はお問い合わせください。



マイレージのご寄付



修学旅行などで貯まったマイレージを国際協力のために生かしてみませんか？デルタ航空のマイレージプログラム「スカイウィッシュプログラム」でためたマイレージでAARの活動を支援することができます。マイレージご寄付のお申し込みはEメールで行っていただけます。

→ Eメールにお客さまの氏名、スカイマイル会員番号、寄付先（AAR）、寄付されるマイル数、電話番号をご記入の上、delta.bids@delta.com のアドレス宛に送信してください。

教材一覧

1. AAR 事業紹介写真（貸し出し）

テーマ別に当会の事業を紹介する写真を貸し出します。写真は B3 サイズ（フレーム付）または A3 サイズ（ラミネート版）の 2 種類があります。

写真の内容・テーマや貸出枚数についてはご相談ください。

ご用意できる写真のテーマ例：

- AAR の主な活動
- 地雷問題
- 障がい者支援
- 東日本大震災被災者支援
- シリア難民支援

.....など

2. DVD（貸し出し）

①「そっちに行っちゃだめ」

アフガニスタンの女の子は地雷の怖さを知らなくていいの？AAR が独自に制作し、事業で実際に使用している短編映画。日本語字幕つき 約 15 分

②「帰郷」

難民生活から故郷アフガニスタンに帰ってきた一家を待ち受けていたものとは…。アフガニスタンの事業で長く使われている短編映画。日本語字幕つき 約 15 分

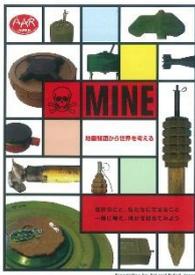
③「世界を変える 100 人の日本人」

「難民救済の母」とも呼ばれた相馬雪香（AAR 創設者）の半生を紹介。 約 15 分

※以下の Youtube サイトでも上記「D.」「E.」の活動ビデオを視聴できます。

<http://www.youtube.com/user/AARJAPAN>

3. 各種パンフレット（無償でご提供します）



■「MINE：地雷問題から世界を考える」
地雷・不発弾、クラスター爆弾とは？何が問題なのか？様々なデータや、地雷対策の取り組みを分かりやすく解説しています。中学生以上むけ。A5・14 頁



■「障害のある人もない人も共に生きる地球社会へ」
途上国の障がい者を取り巻く現状を解説するとともに、AAR の活動を例に、さまざまな障がい者支援のあり方や最近の潮流を紹介しています。高校生以上向け。A5・14 頁



■「エイズとたたかう人たちがいます」
HIV/エイズ問題を理解するうえでのポイントと、AAR がザンビアで実施している対策事業を簡潔に説明しています。中学生以上向け。A4 両面三つ折



■「のぞいてみよう！世界の子どもたちの 1 日」
AAR の活動するアジアとアフリカの国の子どもたちのふだんの暮らしを写真で紹介。住んでいる家や学校の様子、食べているものなど、日本との違いを分かりやすく学べます。A5・50 頁



■原寸大の地雷の写真を載せたポスター。地雷についての説明資料つき（約 58cm×88cm）

写真・DVD 貸出申込／パンフレット希望の際は：

- ① 申込用紙（別紙）に希望教材名と必要数を記入し、AAR 宛に郵送または FAX でお申し込み下さい
- ② AAR よりご連絡の後発送いたします

貸出教材のご返却は：

梱包のうえ、AAR へ郵送ください

※いずれも送料はご負担をお願いいたします